

帯広農業高校学校林でのカラマツ再造林の取り組みと エゾヤチネズミの発生・食害の状況について

北海道帯広農業高等学校 森林科学科

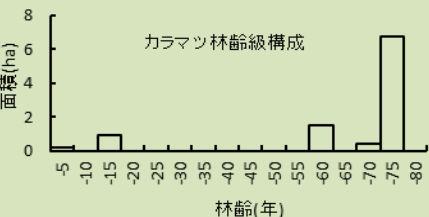
今井ゆい 栄前田穂華 蓮井颯太 人見紗有里 藤原万尋 本間輝

目的

エゾヤチネズミ予察調査14年間の取り組みをまとめる
カラマツ再造林への提案

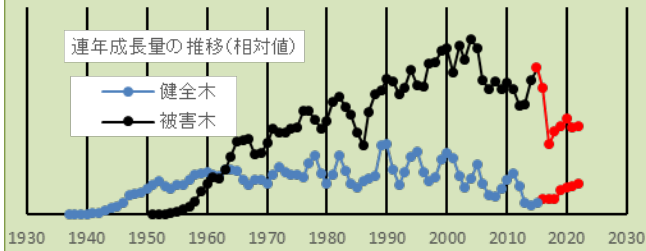
学校林の概要

- ・第一林班(12.60ha)
カシワ、ミズナラからなる広葉樹天然林
- ・第二林班(5.86ha)
カラマツ、トドマツからなる針葉樹人工林
- ・第三林班(8.42ha)
カラマツ、ミズナラからなる針葉樹と広葉樹の人工林



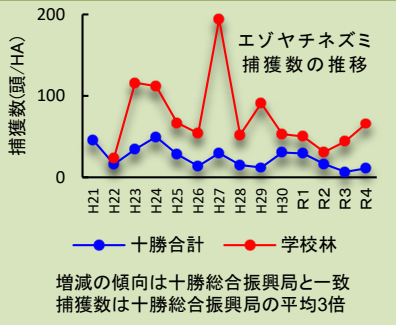
食害による直径成長への影響

食害あり	2.1mm/年	10個体平均
食害なし	2.2mm/年	11個体平均



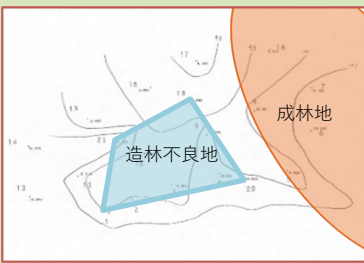
これまでの取り組み

年	取り組み
2009	予察調査開始 被害状況調査 殺鼠剤効果試験
2010	殺鼠剤効果試験 ササと捕獲数の調査
2015	下刈り試験
2016	下刈り試験
2017	市有林での実習開始
2022	食害カラマツの年輪解析 食害時期の調査 クリーンラーチ混植試験 地形調査



樹種	生存率	食害率
カラマツ	85%	3%
クリーンラーチ	88%	0%

造林失敗を繰り返す場所にクリーンラーチを混植して食害以外の枯死原因を探る



周囲に比べやや低い立地が原因？
今後も継続観察必要。

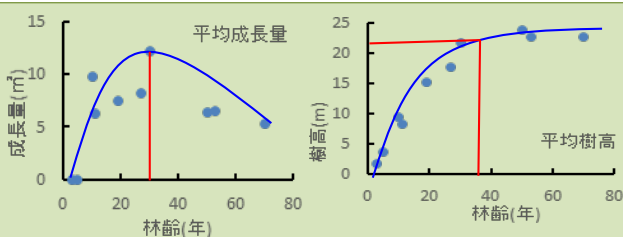
殺鼠剤散布の効果試験 散布翌年の捕獲数		捕獲数		増減率	散布による変化
		10月	6月		
2009~ 2010	第2林班殺鼠剤散布	24	1	-96%	減少率 増大
	第3林班殺鼠剤なし	5	1	-80%	
2010~ 2011	第2林班殺鼠剤散布	16	17	+6%	増加率 減少
	第3林班殺鼠剤なし	2	6	+200%	

	67年生		今年度植栽	
	古い食痕	新しい食痕	古い食痕	新しい食痕
5月下旬	36% (18/50)	0	0	0
12月上旬		0	0	6% (3/50)

12月までには食害が始まる。防除は秋に実施する必要がある

ササの有無と捕獲数(50畝、9日間)					下刈り有無による捕獲数の違い(3日間、畝20個)	
ササ量	畝数	合計捕獲数	1畝当捕獲数	1日当捕獲数	下刈り区	対照区
多	28	30	1.07	0.12	0.11	2015 1 18
中	7	4	0.57	0.06		
少	8	7	0.88	0.10		
無	7	4	0.57	0.06	2016 0 8	

ササがあると捕獲数が多い。下刈りをすると捕獲数は減少。
→下刈りは防除に有効



平均成長量最大の林齢や地位指数を把握

考察

- ・学校林はエゾヤチネズミの数が多く、カラマツ再造林には防除が重要
- ・苗や幼齢林では防除の徹底が特に必要
- ・防除には夏の下刈り、秋の殺鼠剤散布が有効。殺鼠剤は10月までに散布
- ・カラマツ再造林に適さない立地を解明することが必要